



慶應義塾大学SFC研究所
X.SDG Lab.



ビヨンドSDGs 官民会議を中心とした動きについて

2026年3月

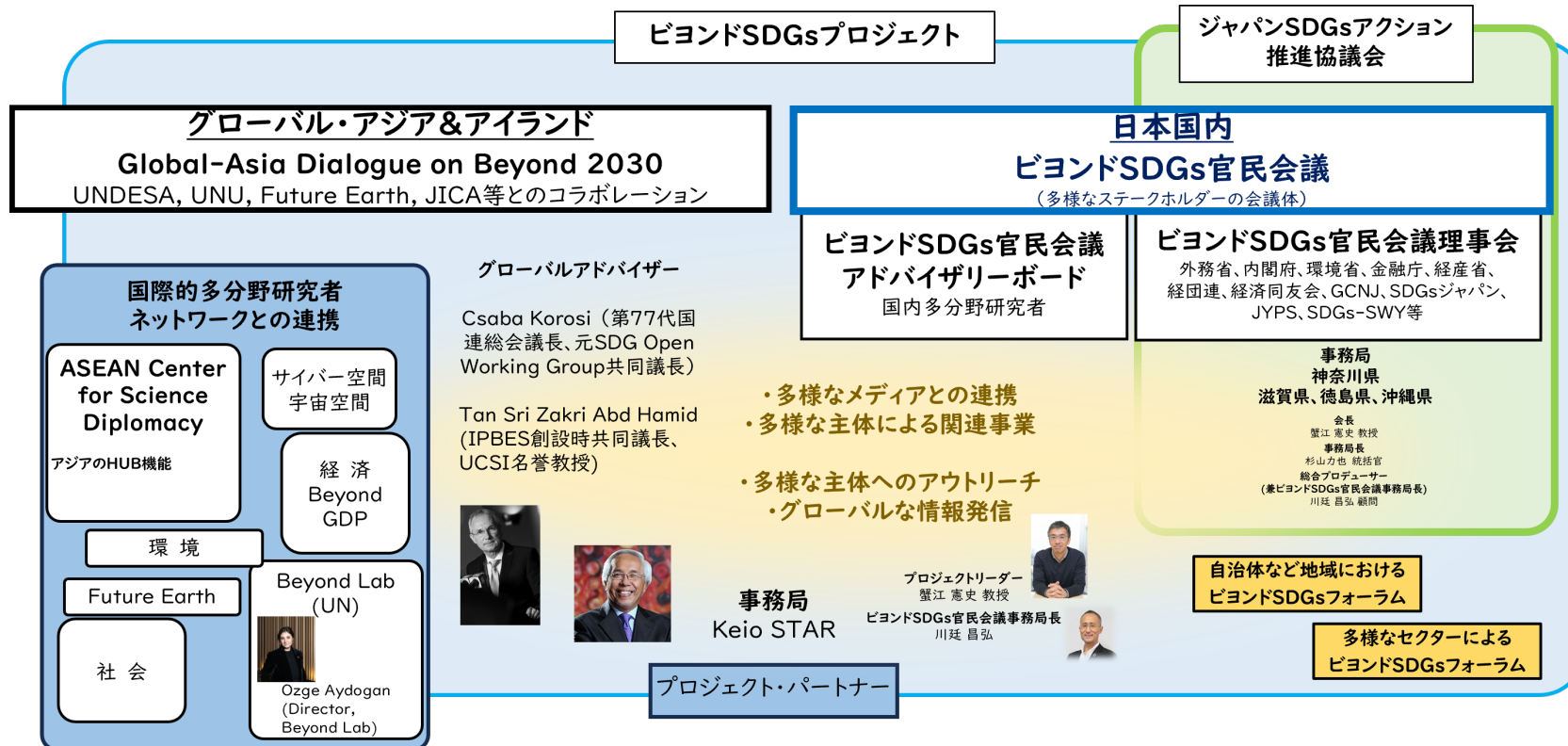
慶應義塾大学大学院教授

Keio STAR 共同代表

蟹江憲史

Beyond SDGsプロジェクト

- 2030年以降の時代へ向け、SDGsの先の目標・ガバナンスについての対話を実施。特に2027年以降の議論に貢献するための課題を特定。同時に、SDGs実施加速へ向けたモメンタムを構築。
- 日本国内では、「ビヨンドSDGs官民会議」が2025年1月に発足。2025年VNR発表を受ける形で9月4日大阪にて第一回会議。2月6日に三田にて第二回会議。
- アジアや島しょ国・地域を中心に、グローバルにも議論を展開し、2025年HLPFのサイドイベントで議論。国内議論がガラパゴスにならないよう担保しつつ、国際展開・仲間づくりを実施。



私たちが、真に豊かな未来を実現するために、
足りないものはなんだろう？

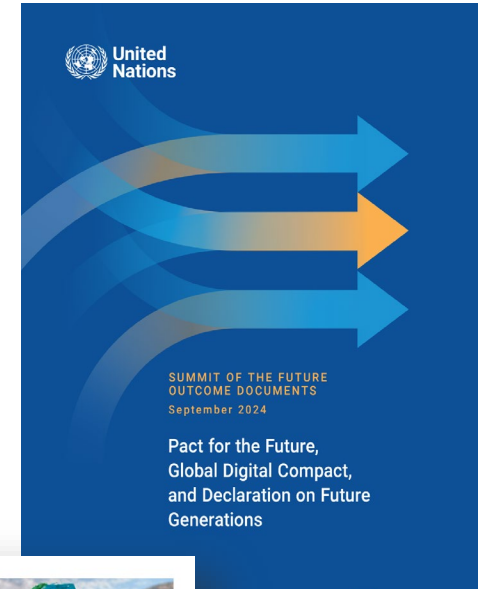
BEYOND!
for beyond SDGs



ビヨンドSDGs議論の背景

1) 国連未来への協定 (2024年9月)

- ビヨンドSDGs目標論議の開始: ポスト2030アジェンダ **2027年から検討開始**
 - GDPを**補完し、あるいは超える**フレームワークの開発
 - 宇宙の探査と平和利用についての国際協力への呼びかけ: デジタル空間、宇宙空間など **新たな空間ガバナンス**の必要性
 - **将来世代**に関する宣言



2) 大阪万博 (2025年)

- 対話の重要性、多様性の重要性、共有ビジョン (SDGs) の重要性が明らかに

SDGs+Beyond
いのち輝く未来社会

SDGsは達成できるか？ そして、その先はどうする？

テーマ期間 10月2日(木)～10月12日(日)
テーマ領域 SDGs、ポストSDGs、いのち、未来社会、Society 5.0 など



3) ビヨンドSDGs官民会議

- 第1回 130名参加、第2回 150名参加

私たちが、真に豊かな未来を実現するために、
足りないものはなんだろうか？
BEYOND!
for beyond SDGs



ビヨンドGDP論議とビヨンドSDGs

- SDGsの先の目標を考える際の基盤となる考え方になる可能性
 - 2025年ハイレベル専門家会議
 - 2026年から多国間での議論
- ビヨンドGDPハイレベル専門家グループ中間報告書（2025年11月）
 - ウェルビーイング、公平性と包摂性、持続可能性を3つの柱に
 - 指標の可能性のある7領域の同定：物質的ウェルビーイング、健康、教育、環境の持続可能性、主観的ウェルビーイング、社会資本（所属意識とコミュニティ）、ガバナンス
- 提示された指標の例（今後変動アリ）
 - 物質的ウェルビーイング：家計（収入、消費）、機会と仕事の質、レジャーや住居、インターネット等へのアクセス
 - 健康：妊娠中や子供の健康、健康寿命、慢性病の割合
 - 教育：教育へのアクセス、労働市場参入のための知識やスキル
 - 環境の質：きれいな空気と水、脱汚染、生物多様性損失
 - 主観的ウェルビーイング：充足感、目標、希望、信頼
 - 社会資本：所属感、参加能力、必要な時の友人や家族の存在
 - ガバナンス：安全安心、決定や活動への参加、差別撤廃
- 各国の優先順位に応じた調整の可能性：グローバル指標と国別フレキシビリティ

ビヨンドSDGs官民会議 進め方

1. エビデンスベースの議論：サイエンスによる状況の整理、Human と Planet の状況、先行きの提示。ガバナンスのあり方や目標年のあり方も含めて。
2. ポジティブな議論：出てきた意見・考えのマッピングが目的、善悪の判断はしない。否定しない。
3. 多様な場での議論：ビヨンドSDGs官民会議以外にも多様な主体が多様な場で議論を行うことが理想的。ビヨンドSDGs官民会議で議論の結果を集められるのが理想。



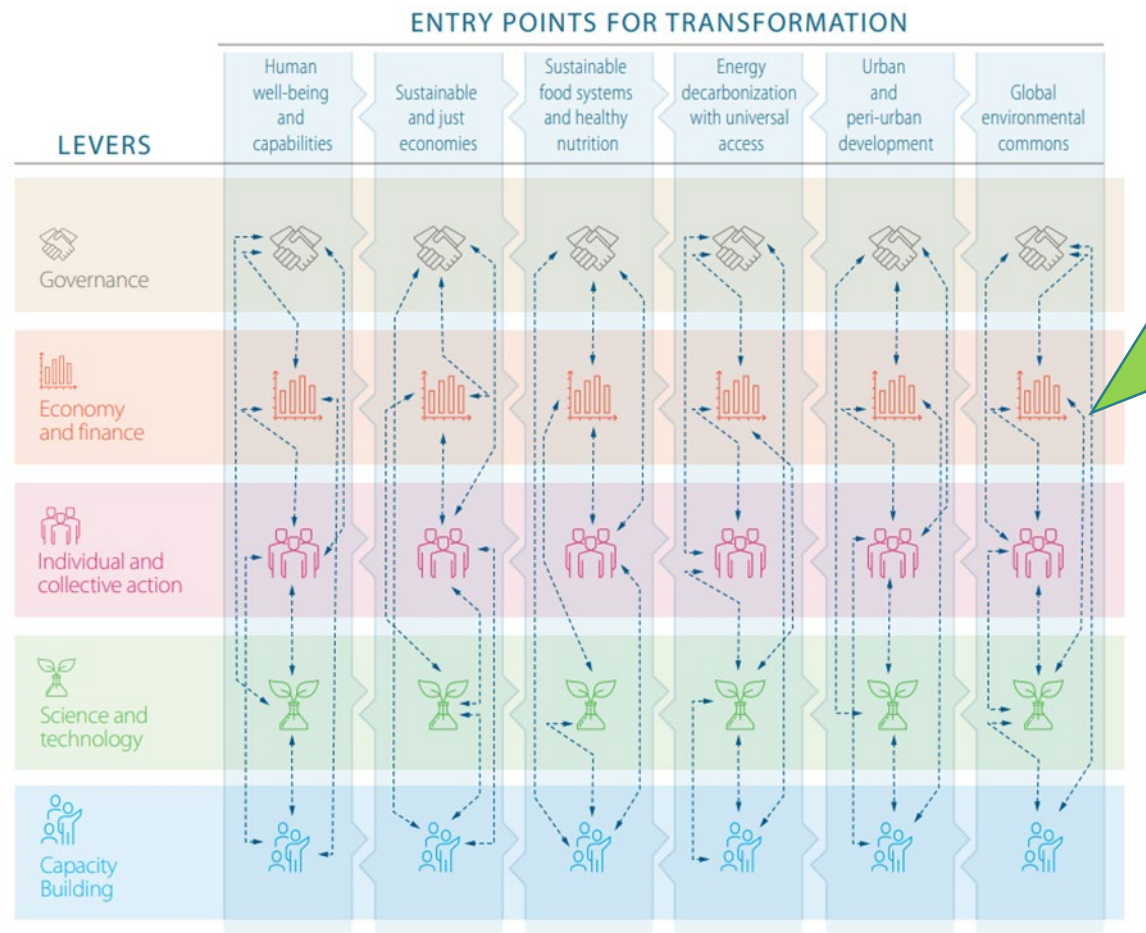
GSDR2023

SDGs達成へ向けた変革のためのフレームワーク

“テコ”

ガバナンス
経済と資金
個人と集団行動
科学技術
能力構築

TRANSFORMATIONS TO THE SDGS: ENTRY POINTS AND LEVERS



“入口”

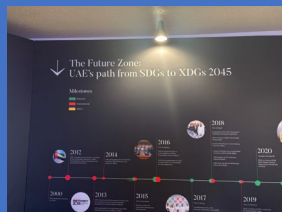
- ・ウェルビーイングと能力
- ・持続可能で公正な経済
- ・持続可能な食料システムと健全な栄養
- ・エネルギーの普遍的アクセスを伴う脱炭素化
- ・都市と郊外の発展
- ・グローバルな環境コモンズ

Pathways are context-specific configurations of levers to achieve transformation in each entry point

ビヨンドSDGs官民会議:議論の課題例

- 2030年以降で目指すべき姿(目標)は?
 - ベースとなるコンセプトは? 「誰一人取り残されない」「ウェルビーイング」「プラネタリーバウンダリーズ」?
 - 新たな課題はなにか? 宇宙、AIは?どのような目標やターゲットが必要か?
 - 目標年は?2045、2050、2075、2100?
 - SDGsの名前やフレームワークは継続すべきか、変えるべきか?
- ガバナンスのあり方は?: SDGsの良い点悪い点、どう変えるのが良いか?
 - グローバルとローカルの関係、アジアのような地域との関係は?
 - パートナーシップやネットワークの活用は?ボトムアップでどのような仕組みができるのか?
 - 実施メカニズムの課題:法的拘束力はどうすべきか?国家の役割は?
- エビデンスベースでの議論をどう進めるか?
 - 科学的エビデンスのインプットをどのように行うか?
 - 日本が推せる(比較優位のある)イシューは何か?

XDG
(UAE)

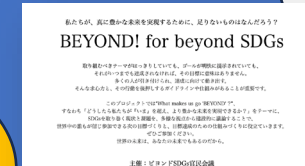


Beyond
Lab.(UN
Geneva)

SDGs評価
(ECプロジェクト、PIK、グ
ローニンゲン
大学、SEI等、
2025,10)



ビヨンド
SDGs官民
会議

SDGs+Beyond
いのち輝く未来社会

大阪万博
SDGs+Beyond
(2025.10)



UNFCCC・パリ協定からの米国離脱、
UNDESA・UNESCAPからの離脱⇔中
国のUN支配強化？

ビヨンドSDGsに必要な研究について

JST支援によるBeyond SDGs課題検討ワークショップ（1月29日京都、2月2日東京）で出てきた主な課題は以下の通り。

- ビヨンドSDGsのガバナンスについて

- 全体として目指す方向性の検討（ビヨンドGDP研究）：環境や社会的側面を含む成長指標の同定。ウェルビーイング、Inclusive wealth、human development indexの発展の上でのビヨンドGDPのあり方の検討
- 地政学を含めた構造に関する課題：HLPFのあり方／進め方／新たな仕組み、目標ベースのガバナンスと法的枠組みの関係、市民会議のあり方
- 資金
- SDGsの成果と課題：どんなインパクトがあったか
 - ✓ 国内
 - ✓ 国際

- ターゲットや指標の具体的検討

- シナジーとトレードオフの同定：次の目標設定においてホーリスティックなアプローチをとるための目標・ターゲットのあり方の検討
- 指標を含む進捗計測方法（含む指標：グローバルとリージョナル、ローカル）、transformation, transitionの計測方法、インパクト計測など）
- 新たな課題とその対応
- 個別課題に関する研究：どう効果的に進めるか

- モデルによる検討

- バックキャスティングによるモデルの検討